

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観 - 4	川喜多映画記念館等管理運営事業	☐ 法定受託事務
所管課	文化観光部 文化課	評価者	文化課長 鋤柄 雅之
一般	会計	款	10
		項	5
		目	50
総合計画上の位置付け	分野名	文化	施策の方針名
			文化活動の支援・促進

1 事業の目的

対象	市民等	意図	映画や映像文化の発信拠点である川喜多映画記念館及び旧川喜多邸の別邸であった旧和辻邸の適正な管理運営を図るため。
効果	訪れた市民などが、川喜多夫妻の功績にふれながら、映画の資料や鎌倉の風情を楽しむことにより文化意識の醸成を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	川喜多映画記念館の運営・維持修繕	川喜多映画記念館の運営・維持修繕	川喜多映画記念館の運営・維持修繕
予算額（千円）	52,639	46,474	
国県支出金			
地方債			
その他		3	
一般財源	52,639	46,471	0
当初人員配置数	0.8	0.8	0.0
人件費（千円）	6,830	7,061	0
事業実績	川喜多映画記念館の運営・維持修繕		
決算額（千円）	52,437		
国県支出金			
地方債			
その他	4		
一般財源	52,433	0	0
人員配置実績数	0.8	0.0	0.0
人件費（千円）	6,626	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	川喜多映画記念館来館者数	人	17,951	↗	16,314		
活1	実績につながる活動	指定管理者による映画上映、企画展等を実施する				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・開館15周年を記念した企画展をはじめ、特別展「サスペンス・ミステリー映画の奇（あや）しい世界」は一定の好評を得たものの、ジャンルが「サスペンス・ミステリー映画」と対象者が限定的であったことから、来館者数はやや減少したものと捉えている。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	川喜多映画記念館友の会入会者数	人	647	↗	711			1
成2	指定管理者が実施する企画展等の来館者の満足度	%	89	⇒	90			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	令和7年度は、開館15周年を記念した企画展をはじめ特別展の実施や、1970年・1980年代の映画上映により、友の会入会者数の増加（満足度を含めて）に繋がったものと考えます。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	来館者数（活動の結果指標）はやや減少したが、来館者の満足度は高い数値を維持できていることから、来館者には川喜多夫妻の功績や映画文化の魅力を伝えることが出来ているものと考えます。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☐ 市	☐ 国・県	☒ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出自している	☒ 概ね出自している	☐ 出自していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☒ 導入済	☐ 導入予定	☐ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
方向性	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針 （見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評		来館者数（活動の結果指標）はやや減少したものの、来館者満足度は高い水準を維持している。市外及び海外からの来館者も一定数存在することから、より多くの方々に来館いただけるような企画展及び上映作品などを指定管理者と協議し充実を図り、鎌倉の映画文化の発信拠点としての施設の魅力向上に努めていく。		
			上位施策への寄与度 A		

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項		総来館者数（R7）・1日平均来館者数							
団体名	鎌倉市	神戸映画資料館 （兵庫県神戸市）	羽島映画資料館 （岐阜県羽島市）	下関市立近代先人顕彰館 （田中絹代ぶんか館） （山口県下関市）					
他市実績	16,314人	5,611人	8,245人	7,428人					
	55人/日	22人/日	27人/日	29人/日					
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		鎌倉市川喜多映画記念館と同規模の映画資料の展示及び上映を行う他施設の状況を把握することにより、客観的に評価を行うために比較を行っている。他施設の来館者数を比較すると、1日の来館者数平均は他施設と比較して多いことが分かる。							